

まちづくり部会

◇ 部会の経過

日 時 ・ 場 所 等	内 容
第1回まちづくり部会（第4回市民会議） 平成24年4月18日（水） 18:30～20:30 野幌公民館 ホール	マトリックス（縦軸にハード・ソフト・ハートづくり、横軸に短期・中期・長期）に第1回～第3回市民会議で出された意見を整理。
第2回まちづくり部会（第5回市民会議） 平成24年5月23日（水） 19:00～22:00 市役所 市長公室	バス交通関連、顔づくり事業について、それぞれの担当職員から内容説明。 第1回部会で整理したマトリックスをもとに、まちづくり政策・戦略テーマを検討。
第3回まちづくり部会（第7回市民会議） 平成24年8月6日（月） 18:00～21:45 市役所 市長公室	第6回市民会議（全体会議）での意見交換を踏まえて、まちづくり政策・戦略テーマをさらに議論。意見の絞り込みを行い、戦略テーマを決定。
第4回まちづくり部会（第8回市民会議） 平成24年9月4日（火） 18:30～21:10 市役所 市長公室	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第3回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。
第5回まちづくり部会（第9回市民会議） 平成24年9月14日（金） 18:30～20:40 市役所 西棟会議室1号・2号	まちづくり政策・戦略テーマを提言書にまとめるため、第4回部会の結果をもとに作成した提言書のたたき台について議論。

◇ 部会委員の構成

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
隼田 尚彦	部会長・有識者委員 北海道情報大学 情報メディア学部情報メディア学科 准教授
笹原 邦子	市民委員
佐藤 尚人	市民委員
瀬野 朋恵	市民委員
名和 靖子	市民委員
深谷 亮一	市民委員
山崎 智行	市民委員

◇ 部会長報告（議論の概要や方向性、部会の想いなど）

まちづくり部会では、少子高齢化がますます進展してくること、高度経済成長期のような急激な成長を見込めないことの2点を前提に、厳しい財政基盤の中で、どのようなまちづくりが現実的に期待できるかということを議論した。

この議論の中でキーとなるのが、「市民協働のまちづくり」、「駅を中心としたコンパクトシティ化」、「交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応」である。

短期的には、市民協働のまちづくりを醸成するために、小さな緑化や町歩きイベント（公共交通網の確認）など、すぐにでもできる小さな取り組みから進め、中長期の計画をにらんだコンパクトシティ化と公共交通網の再構築を行う。市内居住の高齢者が札幌市へ流出するのではなく利便性の高い駅周辺への移住が可能となるような魅力づくりを行う。併せて、多くは望まないものの、札幌に極めて近いという地の利を活かし、高齢者の住み替え需要にマッチングさせた新規の人口流入を自然豊かな住環境を求める子育て世代や新規就農者を対象に推進すると共に、魅力を伝える情報発信が重要と考えた。

まちづくり部会 部会長 隼田 尚彦

1. まちづくり政策提言

～ まちづくり分野におけるまちづくり全体の方向性（マトリックス図参照）

(1) 短期的な取り組み

ハード	<ul style="list-style-type: none"> ① 駅周辺の活性化 — (B) <ul style="list-style-type: none"> ○ 江別駅 (例. 江別駅周辺へのスーパーの誘致) ○ 野幌駅 (例. 野幌駅高架下・駅前広場の活用、野幌駅構内への店舗誘致、学生の作品を展示するアート通りの整備) ② 歩行者と自転車の安全な通行 — (C) <ul style="list-style-type: none"> (例. 歩道に自転車通行ができるかどうかわかる看板の整備、大麻地区の自転車対策をモデル地区として実施、歩行者と自転車の通行の分離) ③ 市街地のバリアフリー化 — (C) <ul style="list-style-type: none"> (例. 道路、店舗、公園、トイレなどのバリアフリー化) ④ 農村地区の住環境整備 — (A) <ul style="list-style-type: none"> (例. 農村地区の公共施設や学校の維持・整備)
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域交通の充実 — (C) <ul style="list-style-type: none"> (例. 買い物難民のための無料バス、スクールバスの一般混乗、バス路線でスタンプラリーの実施、バス路線の接続についての現地調査、市民参加による交通環境の整備) ② コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化 — (B) <ul style="list-style-type: none"> (例. 駅に物産展、農作物を販売できる場所の設置、市民参加による駅周辺の活性化) ○ 江別駅 (例. 江別駅前の農協撤退後の買い物対策) ○ 野幌駅 (例. 駅周辺の歩行スペースの確保、野幌地区の賑わいの創出) ③ 地域情報の発信 — (A) <ul style="list-style-type: none"> (例. 駅にイラストマップを配置、学生と地域住民との地域活動を広く発信) ④ 就農支援の充実 — (C)
ハートづくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 都市と農村の調和 — (C) <ul style="list-style-type: none"> (例. 都会の良さと農村の良さをそれぞれ活かす、森林公園や川の活用、大麻中央公園や湯川公園を再整備して街中自然の保全) ② 学生の力を活かしたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> (例. 顔づくり事業で学生が参加できるプロジェクトの実施— (A)、co. ラボのつぱに関する情報発信— (A)、学生が楽しく過ごせるまちづくり、学生のイベントができる多目的スペースの整備) ③ 江別の強みを活かした財政負担の少ない市民協働のまちづくり — (A) <ul style="list-style-type: none"> (例. 他の自治体と競わず真の豊かさを感じるまちづくり、人口が減少しない住み良いまちづくり、歩道を花で飾る)

(2) 中期的な取り組み

ハード	<p>① コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化 (例. れんがの街並み (⇔れんがの歩道は障がい者にとって危険) - (B))</p> <p>○ 江別駅 (例. 江別駅をデイサービス・病院・託児等の複合施設として整備 - (B)、駅周辺に病院・保育所・大型書店・大型駐車場の誘致 - (B)、江別駅周辺を住宅街として整備 - (B)、江別駅にコミュニティ広場を設置、江別駅周辺を一体的に開発 - (B)、江別駅前に地産地消のレストラン街 - (B)、れんがの商品を扱うやきもの街の整備、商店街としての街並みの回復)</p> <p>○ 野幌駅 - (B) (例. 野幌駅周辺や高架下に商業施設や飲食店を誘致、駅と直結する大型店舗の誘致)</p> <p>○ 大麻駅 - (B) (例. 学生が定着する街並みに整備)</p> <p>② 交通網の整備 - (C) (例. 南北をつなぐ交通網の整備)</p>
ソフト	<p>① 地域交通の充実 - (C) (例. 市内循環バス、コミュニティバスの導入、効率的なバス路線の検討、自家用車を使わなくても良いまちづくり、低床バスの導入支援、低料金の定額バスの導入、温泉・自動車学校・デイサービスの送迎バスの活用、レンタサイクル、カーシェアリングの実施)</p> <p>② コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化 - (B) (例. 箱物ではない江別の顔の創出、江別・野幌・大麻の地域ニーズに合わせたまちづくり)</p> <p>○ 江別駅 (例. 江別駅周辺への企業誘致)</p> <p>③ 人口減少への対応 - (C) (例. 市街地を広げる新興住宅地の開発は検討が必要、豊幌地区への対応)</p>
ハートづくり	<p>① 住環境の整備 (例. 桜や紅葉する街路樹を植樹して食事のできる場所を整備、通り沿いの家々の協力による庭への桜の植樹で住宅街の景観整備 - (A))</p>

(3) 長期的な取り組み

ハード	<p>① 交通網の整備 - (C) (例. 市内散策できるサイクリングロードの整備 (原始林の周囲や鉄道林など)、大麻地区から国道 12 号線への連絡の不便さの解消)</p> <p>② コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化 - (B) (例. 駅周辺に高齢者が住む施設や住宅の整備、高齢化を見据えた徒歩でも買い物しやすいまちづくり)</p>
ソフト	—
ハートづくり	—

末尾にアルファベットが付記してあるものは、戦略テーマ提言の中に位置付けられている取り組み

- (A) 市民協働のまちづくり
- (B) 駅を中心としたコンパクトシティ化
- (C) 交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応

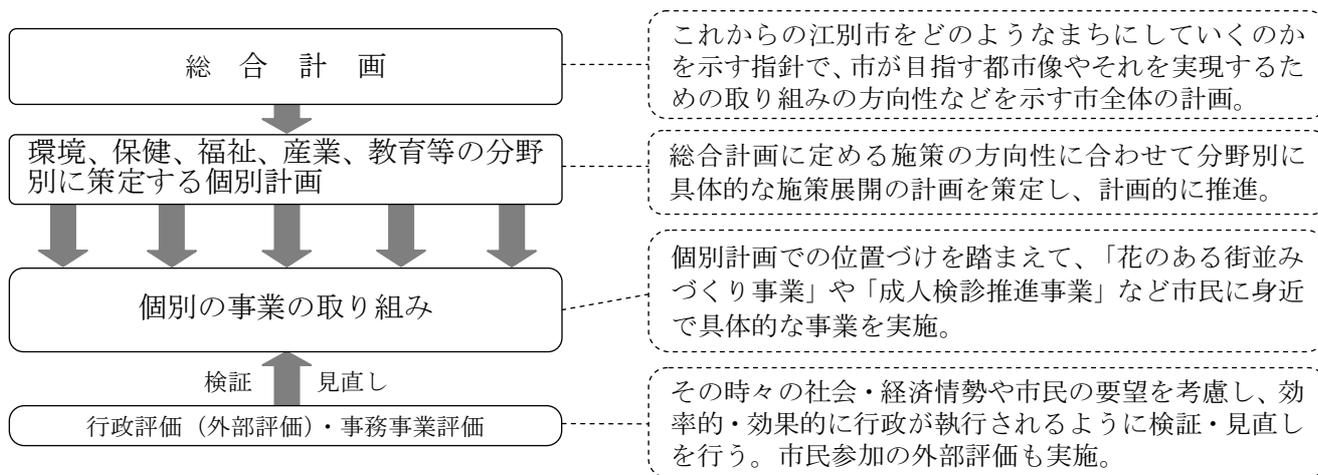
2. 戦略テーマ提言

戦略テーマ名	
(A) 市民協働のまちづくり	
どんな状態にしたいのか	<ul style="list-style-type: none">・厳しい財政下でも、まちに活気を持たせることができるように、行政に「おんぶにだっこ」ではなく、市民自らも動いて官民一体となって作り上げるまちを目指す。・少子高齢社会で、元気な高齢者の役割を作り出し、市民の助け合いによって、生きがいの持てるまちづくりを目指す。・市内4大学とも連携し、学生も参画する元気なまちづくりを目指し、若者が江別に愛着を持つことで、卒業後にも一定数の若者人口の定着を図る。
立案背景	江別市まちづくり市民アンケートによると平成19年以降、1/4～1/3の市民がまちづくり活動を通じて市民同士の助け合いを感じており、約6割の住民が自治会活動に参加している。しかし、市民活動団体の活動に積極的に関与している市民は1割程度である。手軽で気軽なまちづくり活動を継続的に進めていくことが必要と考える。道内にも先駆的なまちづくり活動が、多く存在するので、それらを参考に、市民協働の意識づくりを行う必要がある。
立案に関するデータ	
○ 市民協働の事例	
① NPO法人「わたぼうしの家」(釧路市)	老いても安心してすむことができ、地域と共に支えあい安心して老いられる地域づくりを基本理念として平成12年6月に設立。認知症のグループホームの運営の他、利用者とスタッフが対等の関係つくる「わたぼうし宅老」、食べることよりも高齢者が集うことを目的とした「地域食堂」、独居の高齢者を対象にした「地域交流会」、元気な高齢者が生き生き暮らせる「高齢者いきいきグループリビング」など特色ある取り組みを行なっている。
② 山菜料理の家「グランマ」(白老町)	高齢者の健康づくりや生き甲斐づくりと商店街の活性化を目的として、高齢者14名が集まり起業した「高齢者コミュニティビジネス・麻の会」が、白老町などと連携して、経験豊かな高齢者の知恵とアイデア、そして白老の資源を活用して山菜料理専門店を運営している。
③ 恵み野地区のガーデニングの取り組み(恵庭市)	約4,800世帯ある恵み野地区の家の多くで何らかのガーデニングが行われ、商店街の各通りも各店舗が自主的に植えた花で彩られている。 主婦が一人で花づくり愛好会を立ち上げ、平成4年の地元商店街主催のガーデニングコンテストをはじめに年々評判を呼び、現在では市役所も巻き込んだ地域全体の花のまちづくりに成長しており、今では有名なオープンガーデンには観光バスも停車し、恵み野でガーデニングをするために移住してきた人たちもいる。
④ 多大学交流会「co.ラボのっぽ」(江別市)	NPO法人えべつ協働ねっとわーくと江別市による江別4大学連携事業の一つとして、市内4大学の他、北海学園大学、北海道大学の学生も参加して、地域と大学生との結びつきを強くするために、商店街の様々な問題に取組み、将来の商店街について提案を行う。
○ 江別市の市民活動団体(平成21年9月現在)	
・市民活動団体数：166団体	うちNPO法人：24団体

○ 江別市まちづくり市民アンケート（※前年度の取り組みに対する意識調査）

区分	19年度	21年度	23年度
自治会・NPO・ボランティア等の活動によって、お互いに支え合っていると感じる市民割合（%）	26.6	30.1	24.5
自治会活動に参加している市民割合（%）	63.6	67.4	58.2
NPOやボランティアをはじめとした、市民活動団体の活動に参加している市民割合（%）	9.8	11.2	10.1

○ 総合計画、分野別計画、個別の事業の位置付け



○ 江別市自治基本条例について

自治基本条例は、「市民自治によるまちづくり」を進める上での理念や原則、基本的なルールなどを定め、議会・市長・市民それぞれの役割と責務、権利などを明確にし、市民が主役のより良いまちづくりの実現を目指すための条例で、平成21年7月に公布。

条例の策定にあたっては、市民の手でつくっていかうとの考えのもと、平成17年に市民主体の市民懇話会という検討組織を設け、条例に関する研究や熱心な検討を重ね、多くの市民の声を聞きながら条例の骨子をつくり上げ、たくさんの市民の思いが込められている。

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ・ 駅周辺の空店舗等を活用し、学生作品などを展示するなどの賑わい空間を整備し、市民や学生の参画を促す
- ・ 農村部の基点となる公共施設や学校を整備し、農村部の住民ネットワークを醸成する（現状の問題点や事業計画と関連させて）

2 ソフト

- ・ 市民協働の意識づくりに役立つハードルの低い手軽なイベントなどの企画に市民協働で取り組む
- ・ 学生や地域住民のまちづくり活動や地域情報を市民と学生に情報発信する仕組みを構築する（インターネット、スピーカー、デジタルサイネージ（電子看板）、フリーペーパー、イラストマップなど）
- ・ 地産地消などを推進する情報の発信

3 ハートづくり

- ・ 学生の力を活かしたまちづくり事業を実施する（顔づくり事業や co. ラボのつぼとの関連。学生のイベント活動等の支援）
- ・ 江別の強みを活かした財政負担の少ない市民協働のまちづくりを实践する（他の自治体と競わず、真の豊かさを感じるまちづくり、人口減少の起こりにくい住みやすいまちづくり、歩道などを花で飾る運動など）
- ・ 地域住民のネットワークづくりや地域産業をサポートするコミュニティビジネスの活動を支援

【中期】

1 ハード

- ・ 農村部の基点となる公共施設や学校の整備（短期から継続。現状の問題点や事業計画と関連させて）

2 ソフト

- ・ 市民協働の意識の向上を図るイベントなどの継続的な企画を市民協働で取り組む
- ・ 市の個別の計画や事業の取り組みに関して、市民参画を促す情報発信とイベントの企画を市民協働で取り組む

3 ハートづくり

- ・ 自然環境や住環境の整備に関するイベントや事業を行う（花や紅葉などを楽しめる街路樹を市民が植樹するイベントや、通り沿いの民家の協力を仰いで、庭に植樹することで住宅地の景観を向上させることなど）
- ・ 短期から継続的に、学生の力を活かしたまちづくり事業を実施する（顔づくり事業や co. ラボのつぼとの関連。学生のイベント活動等の支援）
- ・ 短期から継続的に、地域住民のネットワークづくりや地域産業をサポートするコミュニティビジネスの活動を支援

【長期】

1 ハートづくり

- ・ 短期から継続的に、学生の力を活かしたまちづくり事業を実施する（顔づくり事業や co. ラボのつぼとの関連。学生のイベント活動等の支援）
- ・ 短期から継続的に、地域住民のネットワークづくりや地域産業をサポートするコミュニティビジネスの活動を支援

戦略テーマ名

(B) 駅を中心としたコンパクトシティ化

どんな状態にしたいのか

札幌に近いという地の利を活かし、各駅周辺を野幌駅周辺のように商業施設の張り付きなどを更に推進し、駅周辺に高齢者が住む施設や住宅の整備、高齢化を見据えた徒歩でも買い物しやすいまちづくりを行うとともに、学生を含む市民協働のまちづくりイベントなどを通じて、賑わいのあるコンパクトなまちづくりを進める。一方で周辺地域との繋がり維持に配慮する。

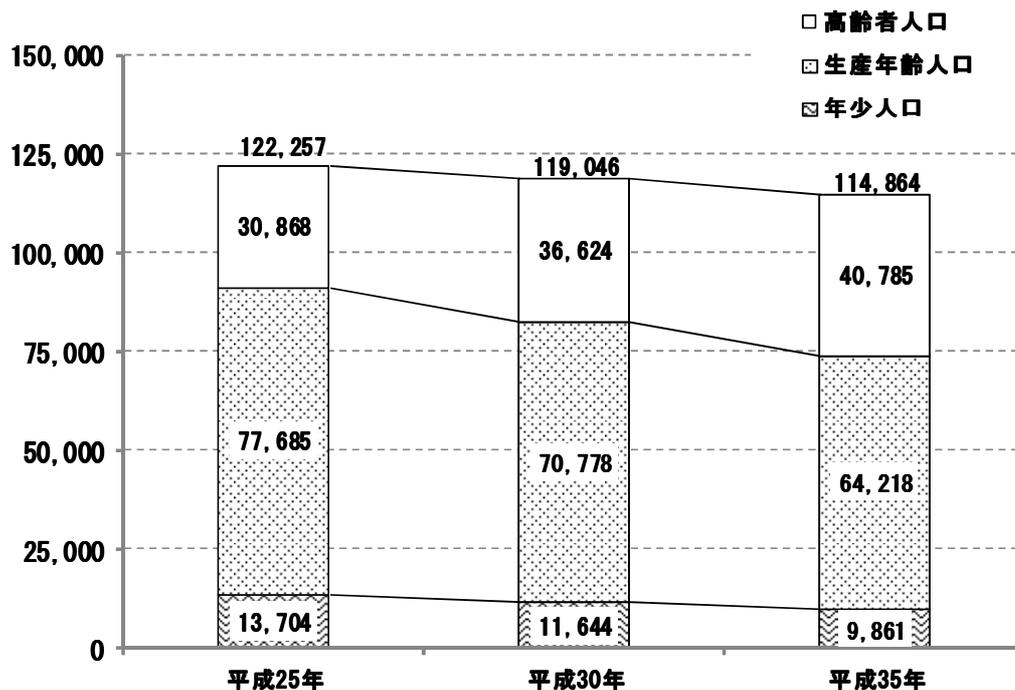
立案背景

市内人口の推移を見ると、緩やかな減少傾向にあるだけでなく、高齢化の進んでいる地域が目立つようになってきている。また、野幌駅では既に顔づくり事業が進んでおり、一方で江別駅周辺は、今後、買い物難民が出ることが予想されている。

立案に関するデータ

○ 江別市の将来人口推計

今後、緩やかな減少傾向となり、平成30年には12万人を下回る見込み。



○ 高齢化率の推移 (江別市将来人口推計結果)

平成30年には高齢者人口が30%を上回る見込み。

		総人口	高齢者人口 (65歳以上)	
			人数	割合
実績値	平成12年	123,877人	18,837人	15.2%
	平成17年	125,601人	22,481人	17.9%
	平成22年	123,722人	27,030人	21.8%
推計値	平成25年	122,257人	30,868人	25.2%
	平成30年	119,046人	36,624人	30.8%
	平成35年	114,864人	40,785人	35.5%

(実績値は国勢調査)

【短期】

1 ハード

- ・ 駅周辺の活性化（江別駅周辺の利便性の維持、野幌駅高架下・駅前広場の活用・駅構内への店舗誘致・各駅に作品展示スペースなどの整備）
- ・ 駅周辺の安全な歩行スペースの確保
- ・ 各駅を公共交通のハブとして強化し、周辺地域との繋がりを維持する

2 ソフト

- ・ コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化（駅で物産展や農作物の販売ができるスペースの確保、市民参加による駅周辺の活性化イベントの実施）
- ・ 江別駅前の買い物対策（ハード事業と併せて、ソフト対応も要検討）
- ・ 野幌地区の賑わい創出イベント等の実施

3 ハートづくり

- ・ 作品展示スペースを活用して日常的なイベントの実施

【中期】

1 ハード

- ・ コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化
 - 江別駅：デイサービス・病院・託児所等の複合施設として整備し、商業施設の誘致や駐車場の設置、集合住宅も一体的に整備する。地産地消の商空間も。冬期のバリアフリーにも配慮する（スカイウェイや他用途の積層化など）
 - 野幌駅：駅と直結する店舗や集合住宅など
 - 大麻駅：学生が定着する町並みの整備、高齢住民が札幌に流出しない町の整備など
 - 煉瓦の活用を考える（←煉瓦敷きの歩道は、障がい者にとってバリアとなることも）
 - 官民一体となって全体計画を策定した上で事業を実施

2 ソフト

- ・ コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化（箱物でない江別の顔の創出、各地域ニーズに合わせたまちづくり；江別駅周辺への企業誘致など）
- ・ 高齢化に伴う市内の住み替え需要に対する支援（相談窓口など官民一体で）

3 ハートづくり

- ・ 作品展示スペースを活用して日常的なイベントの実施
- ・ 中心部と周辺部との交流事業を実施する

【長期】

1 ハード

- ・ コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化（高齢者が住み続けられる住環境の整備；高齢者施設や住宅の整備と徒歩でも買い物しやすいまちづくりを行う）

2 ソフト

- ・ 短期・中期の成果をその時の状況を見据えて、継続的に行う

3 ハートづくり

- ・ コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化（高齢者が孤立しないようなソフトづくり。高齢者が主体となって生きがいを作るような事業の創出）

戦略テーマ名

(C) 交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応

どんな状態にしたいのか

- ・市内各施設への公共交通ネットワークの最適化を図る。
- ・利便性を求める者、自然環境を求める者などのニーズに対応。
- ・コンパクトシティ化した中心部と農村部の調和を図り、中心部と周辺地域との繋がりを強化。

立案背景

- ・自家用車中心でバスネットワークが事実上、機能していない（極めて、利用しづらい）が、今後高齢者の増加に伴う公共交通需要が高まると考える。
- ・商業施設の撤退による買い物難民の問題が顕在化しつつある。
- ・江別市における就農者の高齢化・1次産業の担い手の減少と、農業生産法人の拡大や新規就農希望者の社会的増加を考慮し、札幌という大都市圏に近い地の利をアピールした就農支援。

立案に関するデータ

○ 路線バスの状況

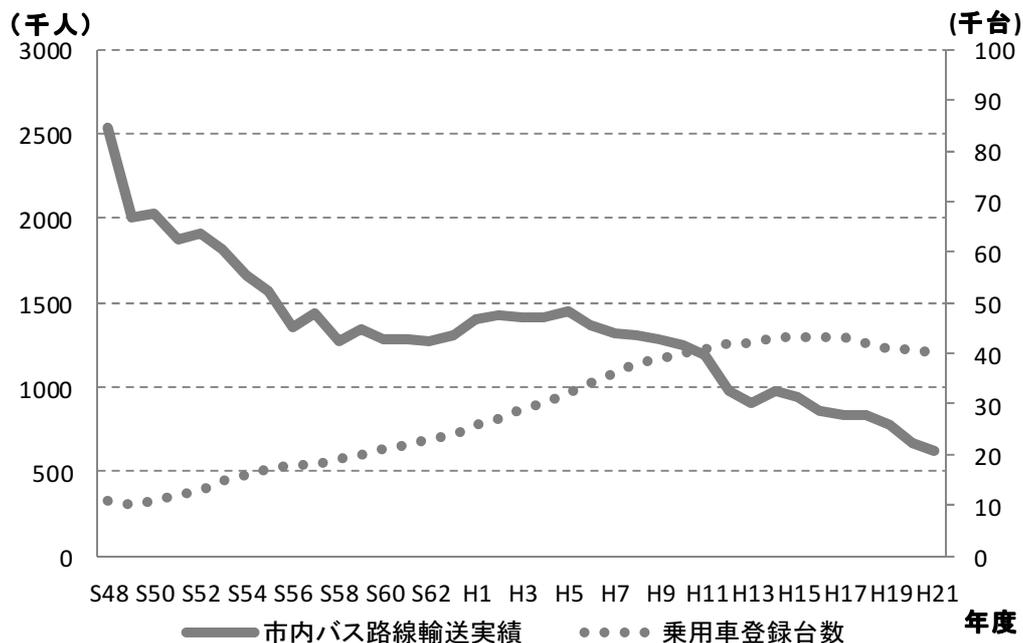
5社、25路線

- ・ジェイ・アール北海道バス：9路線
- ・北海道中央バス：8路線
- ・夕鉄バス：6路線
- ・下段モータース：1路線
- ・ニューしのつバス：1路線

○ 市内路線バスの利用者数の推移

乗用車の登録台数が年々増加傾向にある一方で、市内路線バスの利用者は減少を続けている。

市内バス路線輸送実績と乗用車登録台数



○ 路線バスの利用者数の推移（千人）

市内線、市外線ともに利用者が年々減少している。

区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	5年平均
市内線	833	779	666	627	611	703.2
市外線	4,419	4,343	4,232	3,905	3,812	4,142.2

○ 江別市まちづくり市民アンケート（※前年度の取り組みに対する意識調査）

区分	19年度	21年度	23年度
市内の移動に困らない市民割合（%）	79.6	80.9	77.8
市外への移動に困らない市民割合（%）	79.0	81.0	77.2
交通手段が充実していると思う市民割合（%）	71.3	71.5	67.5

○ 平成17年と平成22年の人口比較（国勢調査ベース）で+200人以上の地区の年齢構成（人、%、歳）

区分	総数（人）	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	平均年齢
萌えぎ野西	1,099	35.9	7.8	23.7	18.6	7.2	6.8	30.9
ゆめみ野東町	2,277	36.6	6.0	20.3	20.7	7.6	8.7	31.9
ゆめみ野南町	1,696	37.8	6.0	19.8	21.3	7.0	8.1	31.6
新栄台	3,748	33.5	4.9	19.1	17.7	5.6	19.3	37.5
大麻桜木町	1,194	19.5	8.8	16.5	12.7	11.7	30.8	43.6
大麻ひかり町	1,956	34.3	7.3	18.0	21.5	9.0	9.9	33.3

※平成22年国勢調査より

○ 主な農業地域の年齢構成（人、%、歳）

区分	総数（人）	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	平均年齢
江別太	391	7.9	5.6	13.0	7.7	10.5	55.2	59.8
美原	540	13.3	8.2	7.0	12.2	16.1	43.2	52.4
篠津	353	11.3	8.2	6.8	10.5	19.3	43.9	53.5
中島	65	12.3	7.7	10.8	15.4	6.2	47.7	51.8
八幡	144	22.9	5.6	6.3	13.2	13.9	38.2	46.9
角山	272	14.7	6.3	6.3	14.7	13.6	44.5	53.0
豊幌	295	10.1	10.5	6.8	9.2	17.3	46.1	54.6
大麻	65	12.3	9.2	9.2	9.2	18.5	41.5	51.1

○ 1次産業の担い手

	単位	21年度	22年度	23年度
農家戸数	戸	502	483	473
新規就農者数	人	8	5	0
農業生産法人数	団体	41	44	45

戦略テーマ実現への方策

【短期】

1 ハード

- ・ 歩行者と自転車の安全な通行（標識や看板の設置、歩行者と自転車の分離のモデル事業（大麻地区））
- ・ 市街地のバリアフリー化（道路、店舗、公園、トイレなど）

2 ソフト

- ・ 地域交通の充実（各駅や利便性の高い施設を中心とした公共交通ネットワークの検討、買い物難民を作らない！民間の無料送迎バスやスクールバスの一般混乗、バス路線でのスタンプラリーとバス路線接続の現地調査イベント、市民参加による交通環境の整備）
- ・ コンパクトシティ化に伴う市内転居の促進（交通弱者の問題も軽減する）
- ・ 就農支援の充実と情報提供

3 ハートづくり

- ・ 都市と農村の調和（都市の良さと農村の良さを活かす・森林公園や河川の活用・大麻中央公園や湯川公園の再整備など街中自然の保全イベント・市民植樹など）
- ・ 様々な住環境需要への取り組みに対するPRの方法を検討

【中期】

1 ハード

- ・ 南北を繋ぐ交通網の整備
- ・ サイクルシェアリング（レンタサイクル的利用を含む）の拠点を駅につくる

2 ソフト

- ・ 地域交通の充実（市内循環バス・コミュニティバスの導入。効率的なバス路線の検討・自家用車を使わなくても暮らせるまちづくり、低床バスの導入支援、低料金の定額バスの導入の検討、各種送迎バスの地域活用、サイクルシェア、カーシェアリングの実施）
- ・ 人口減少への対応（市街地を拓げる新興住宅地の開発は要検討。豊幌地区への対応。高齢化に伴う住み替え需要と新規転入を促す政策の検討）

3 ハートづくり

- ・ 様々な住環境需要への取り組みのPR
- ・ 短期計画からの継続事業の実施

【長期】

1 ハード

- ・ 交通網の整備（市内散策できるサイクリングロードの整備、大麻地区から国道12号線への接続の強化など）

2 ソフト

- ・ 短期・中期の取り組みを見直しながら継続

3 ハートづくり

- ・ 短期・中期の取り組みを見直しながら継続

「まちづくり部会」 まちづくり政策提言

